

黒部市民病院公立病院改革プランの各計画における具体的な取組み及び自己評価

経営効率化に係る計画

改革プラン策定時における具体的な取組み及び実施時期等（平成 20 年度時点）	24 年度 実績及び自己評価
<p>民間経営手法の導入</p> <p>当面は民営化への方針はないが、部分的に民間委託できる業務については積極的に検討していく事とし、公設民営化や公営企業法の全部適用等も併せて検討していく。また、老朽化している介護老人保健施設や外来診療棟の改築時については P F I の採用も視野に入れ、計画期間内に方針を決定していきたい。</p>	<p>予定どおり外来診療棟等増改築事業が着工した。</p>
<p>事業規模、形態の見直し</p> <p>期間中、事業規模の見直しについては考えていないが、医師や看護師不足の問題から病棟閉鎖等規模の縮小を余儀なくされている近隣の病院の現状を踏まえ、地域の中核病院としての役割を担う当院は、診療科数と病床数の現状を維持することを最低限の課題とし更なる設備の充実と療養環境の改善を目標とする。</p>	<p>24 年度についても規模の縮小等に関する問題は発生しなかった。</p> <p>また、年度内に電子カルテシステム（総合医療情報システム、総合医療画像管理システム）を等の医療器械・備品を更新し病院機能の充実を図った。</p>
<p>経費削減・抑制対策</p> <p>①人件費に関する事項 医業収益に対する人件費率は、平成 20 年度予算で 51.5%だが、医師や看護師の適正配置や委託可能な業務についての検討により、比率の伸びを極力抑える。</p> <p>②材料費の抑制 材料費抑制の為、診療材料や薬品の共同購入や値引交渉強化による購入額の抑制と在庫の預託化推進による不良在庫の予防と効率的な購入による購入額の縮減に努める。</p>	<p>医業収益の減に伴い、24 年度の給与費比率は 52.5%となり 23 年度実績（51.0%）と比較し増加した。</p> <p>平成 24 年度末診療材料棚卸金額 26,959 千円（23 年度末 30,893 千円） 平成 24 年度薬品値引金額（上期及び下期）17,377 千円（23 年度 15,116 千円） 平成 24 年度末後発品採用率 11.6%（23 年度末 11.4%）（25 年 9 月末 12.5%） 医薬品・診療材料の購入にあたっては、全国の病院とのベンチマークを価格交渉材料に用い安価な購入に努めた。</p>
<p>収入増加・確保対策</p> <p>①入院 収益の増と病床利用率の安定化を図るための対策 DPC（診断群分類包括評価）の導入（急性期病院は、D P C への取り組みが必然となっており、安定した診療報酬と増収に繋がっていくと考える。当院は平成 21 年 7 月の D P C 導入を目指し現在取り組み中である。）・手術室の効率運用による手術件数増・クリニカルパス拡充による在院日数の短縮・高度医療機器の共同利用・開放型病床の利用推進</p> <p>②外来収益の増と患者数の安定化を図るための対策 医療情報ネットワークの推進による病診連携と病病連携を強化・紹介率及び逆紹介率の向上</p> <p>③その他 分娩費の自費診療費、保険外併用療養費等の社会情勢やサービスに見合った料金適正化</p>	<p>入院収益は、患者数の減（23 年度 139,097 人→24 年度 125,681 人）、全身麻酔手術件数の減（23 年度 1,556 件→24 年度 1,517 件）等の理由により 23 年度と比較して 271,031 千円の大幅な減収となった。</p> <p>外来収益は、抗癌剤等の治療薬に関する収入が増加したこと等により前年対比で 6,290 千円の増収となった。</p> <p>平均在院日数は、14.9 日と当初の目標（15.5 日）をクリアした。</p> <p>また、逆紹介率は、5,658 件で 24 年度目標の 5,850 件を下回った。</p>
<p>その他</p> <p>①サービス向上に関する事項 院内に患者サービスを検討する委員会を設置し、定期的にアンケートを実施するなど利用者のニーズを把握するよう努めていく。また、時間外の患者さんが安心して受診できるよう、救急室に地域救命センターや小児急患センターを併設している。入院における看護体制では、全一般病棟で夜勤 4 人・4 人体制の実現により、安心で手厚い看護体制の実現を目指す。</p>	<p>年 5 回の事業（演奏、日舞、民謡等）を行い患者様に安らぎの場を提供した。</p> <p>また、外来診療及び入院患者満足度調査を行い結果については現場にフィードバックした。今後も引き続き看護師の確保に努め 7 : 1 看護を目指す。</p>

②その他 院内でのTQM・QC活動に力をいれ、職員からの業務改善案を積極的に採用し、病院利用者全員のサービス向上に努めたい。	以前から看護部では職場環境改善、業務改善に取り組んでいる。
病床利用率の状況を踏まえた病床数等の抜本見直し、施設の増改築計画の状況等 常に90%以上の高い病床利用率を維持しており、病床数の削減は考えていない。しかし、1病棟当たりの病床数が多く看護師の負担が大きいことから平成25年頃に予定している外来棟等の建築時に、病床配分の再編を予定している。	24年度の一般病床利用率は84.8%（23年度93.4%）と目標（87.0%）を下回った。 28年度内の完成に向け、24年度内に外来棟等増改築事業が着工した。

再編ネットワーク化に係る計画

再編・ネットワーク化計画の概要及び当該病院における対応計画の概要 今後、ますます進むと言われている高齢化に向け、急性期を担う病院とそれ以外の病院と今まで以上に機能分担する必要があると考える。ただし、このことは当院のみで進められる話ではなく、他院、他自治体及び県とも十分な話し合いが必要であるため、実現までにはまだ不透明な部分が多い。	再編・ネットワーク化については病院間同士の話し合いで結論が出るのではなく、長期的な観点でかつ慎重に考えていく必要がある。
---	--

経営形態見直しに係る計画

経営形態見直し計画の概要 当面は、経営形態を変える予定はないが、今後の社会情勢等を踏まえ種々の経営形態について研究・検討していく。	今後も全国の自治体病院の動向を注視しつつ、最適な経営形態について検討していく。
--	---

平成24年度自己評価・達成状況の総括

平成24年度は、外来診療棟等増改築事業が着工し、電子カルテシステムも大きなトラブルが無く更新することができた。

一方収支については、入院患者、手術件数が減り最終決算は、10,126千円と昨年に比べて213,549千円の大幅な減収となった。このことから今後はより一層の収入確保、支出削減に努め収益の向上に努めていきたいと考えている。

平成24年度黒部市民病院公立病院改革プラン評価

当院は、県内主要自治体病院の中で健全な経営基盤を有する病院として、過去から高い評価を受け今日に至っており、平成21年度決算では、赤字決算となったものの、平成22年度決算では黒字に回復し、平成23年度では223,675千円の大幅な黒字決算となった。

しかし、平成24年度は、黒字は維持したものの、患者数、手術件数の減等に伴い大幅な減益となった。このことから病院事業関係者においては堅固な経営基盤の構築に努められ常に患者目線に立ったきめ細やかなサービスに全職員で取組みこの苦境を乗り越えていただきたい。また、昨年秋に着工された増改築事業が諸々の困難を克服し順調に進行されることを願うものである。

黒部市民病院公立病院改革プラン数値評価

財務に係る数値目標

数値目標	22年度実績	23年度目標	23年度実績	24年度上半期実績	24年度目標	24年度実績	25年度目標	26年度目標	備 考
経常収支比率【100%以上が好ましい】	100.9	101.1	102.3	106.8	100.9	100.1	100.1	100.1	% (103.9%)
医業収支比率【100%以上が好ましい】	100.7	100.8	102.2	108.2	100.7	100.5	100.0	100.0	% (98.4%)
職員給与費比率（対経常収益）【低い方がよい】	48.0	48.1	47.6	49.7	48.0	49.2	48.0	48.0	% (45.9%)
職員給与費比率（対医業収益）【低い方がよい】	51.6	50.9	51.0	51.5	51.6	52.5	51.6	51.6	% (50.5%)
委託費比率（対医業収益）	8.2	8.2	8.0	8.7	8.0	8.3	8.1	8.1	% (7.8%)
病床利用率【高い方がよい】	93.7	93.4	91.8	83.7	84.0	83.2	85.0	87.0	%
病床利用率（一般病床のみ）【高い方がよい】	95.5	95.1	93.4	86.1	87.0	84.8	87.8	90.0	% (81.2%)

()は23年度の当院と同規模全国黒字病院の平均数値

公立病院としての医療機能に係る数値目標

数値目標 【】内は指標	22年度実績	23年度目標	23年度実績	24年度上半期実績	24年度目標	24年度実績	25年度目標	26年度目標	備 考
逆紹介件数	5,725	5,800	5,839	2,879	5,850	5,658	5,900	5,950	件
【病診連携】									
クリニカルパス利用率	38	38	37	39	40	39	43	44	%
【医療の標準化】									
患者1人あたりの診療収入（入院）	38,049	39,900	40,237	42,015	42,000	42,376	42,500	42,500	円
【急性期】									
全救急患者に占める入院患者の割合	16.5	16.1	15.5	15.2	15.5	15.5	16.0	16.0	%
【救急】									
平均在院日数（一般病床のみ）	15.9	15.0	15.7	15.1	15.5	14.9	15.0	15.0	日
【急性期】									

自己評価

平成24年度実績は、病床利用率の低下に伴い収益が落ち込み、経常収支比率、医業収支比率共に目標を下回った。ただ、患者1人あたりの診療収入はDPC調整係数の増等により増加した。平成25年度も厳しい経営が予想されているが、収入の確保、費用の削減に病院全体で取り組み目標を達成したいと考えている。